

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷九第

行發日一月二十年八正大

論 說

勞働と資本との根本的協調……………

法學博士 田島 錦治

特別課徴の利害并に其當否……………

法學博士 神戶 正雄

所帶統計概説(一)……………

法學博士 財部 靜治

植民地の土地政策(一)……………

法學博士 山本美越乃

明治の米價調節(四)……………

法學士 本庄榮治郎

時事問題

勞働組合の公認問題……………

法學博士 戸田 海市

海上再保險官營問題……………

法學士 小島昌太郎

雜 錄

我國における新ブルジョア階級の成立(一)……………

圓谷 弘

鄧牧の「伯牙琴」……………

法、文學士 小島 祐馬

獨逸の戰時財産差増稅新法案に就て……………

法學士 汐見 三郎

經濟論叢第九卷總目錄……………

編輯 委員

雜 錄

我國に於ける新ブルジョア

階級の成立

圓谷 弘

凡て歴史は流動の發展なり。而して此の流動の過程に於て絶えず文化價値を創造しつゝ進化するものなり。故に表面模倣の形態に於て發展するが如く見るも、深く考ふれば之れ皮相の見たるを免れず。即ち如何に優秀なる文化も單なる模倣によりてのみ移植し得べきものにあらずして、其文化の移植に際しては、之を攝取する國民に其文化を消化するの能力あることを要す、換言すれば其國民の受容能力の程度如何によりて外來文化攝取の程度に差異を生ずるものなり。

此の見地より我國を顧るに、余はかの江戸時代に表現されたる町人精神の普遍化の現象内に

於て、すでに資本主義の萌芽を孕めるものなりと考ふ。而して今日の如く新ブルジョア階級の出現發達を見るを得たるは、維新後に於て斯る發達の萌芽を内存し、加るに資本主義に順應するの能力を有したる當時の知識階級即ち士族の産業化によりて、資本主義的産業の發展を見たるに因するものなりと思惟す。

實に維新の事業の特質は諸事新たなるにあり。獨り政治上の革新のみに止まらずして社會上の改革果ては産業上の大改革たるにあり。江戸時代の末、外國貿易の開始と共に、貨幣比價の均衡全く破れ、物價は遽かに暴騰し産業上に於て大なる騷亂を來し、舊來の財主多くは重傷を蒙れり。次いで維新の政府となるに及び、更に不換紙幣の濫發あり。市場混亂の勢に油をそそぎて益々之を熾ならしめ財界全く攪亂せられ、茲に新人物の出現を見るに至れり。當時もし政治上の改革有りしのみにて、産業界は依然として舊人物の支配下にありしならんには、維新の事業もあはれ半途にて挫折せしやも計るべ

からず。幸にして薩長の武力が幕府の金城鐵壁を破りたるが如く、貨幣の變動は市場の舊主人をして無勢力たらしめ、茲に我國は政治上の新人物を得ると共に産業上にも新人物を得。政府の助長主義は産業上の進歩主義と歩を聯ねて進むことを得たるなり。

抑も我國の舊産業と資本主義的産業との間には一の間隙あり、此の間隙こそ下流武士をして政治上の舞臺に立たしめたると同様に、又産業上に於ても士族活躍の餘地を與へたるものなり。

一度政權を握りたる士族は、資本主義的産業の移植に急なるの餘り、極端なる保護助長の政策をこるに至れり。其の政策たるや、直接の指導となり、間接の保護となり、相待つて我國産業發展の成果を顯出せしめたり。而して政府が始め此新産業に於ける活躍の人的要素を當時教養ありし士族階級の内に見出し、之を誘導したるは實に當局の慧眼なりしと謂ふべし。當時の町人を見るに、彼等は教育皆無にして新に資本

主義化するの順應性を有せず、只帳面をつけ算盤を弾き、目前の利害の打算に長所を有するのみ。世界の形勢を察知し外國人の傭教師を使ひこなしして大企業の主人公となるには、素人ながらも士族の方は之に優りしなり。蓋し士族は數百年の長き、武士的精神の環境に養成せられ、且教育の素養ありて、泰西の學に移り易く、加るに政權は彼等の手に在りしを以て、政府は自己圈内の士族に對しては共鳴と同情とを有したり。依て政府はひたすら士族の新産業に向ふの傾向を保護助成し其勢を促進せしめたり。此の事たるや彼等をして新ブルジョア構成の先驅者たらしめ、次の之を繼承したる學校出身者と共に彼等士族をして新ブルジョア階級の中核を形成せしめたるなり。

(一) 士族の浮浪化

幕府より明治への政治的變遷を形式上より觀んか、政權は依然として武士階級の手にあり。只上級より下級への移轉たるに過ぎず。而して江戸時代の統治政策によりて壓倒せられ「お上

の事」は御無理御尤として服従の徳にのみ養成せられたる我邦人は、政府崇拜の傳統的的思想感情を繼承して明治時代へと移り來れり。故に此思想は明治に至りて官尊民卑の現象となりて現れ深く人心を支配せり。殊に士族に於て其の最も大なるを見る。故に祿より離れたる彼等士族は殆んど皆官途へ、役人生活へと移向せり。今之れを瀟澤翁に聞けば、

「進退俯仰唯政府の命に之れ遵ひ、所謂權利義務等の如きに至りては未其何物たるを辨する能はず。政府令す所あれば國を擧て之を奉し、政府趨く所あれば國を擧て之に歸し、凡そ風俗言語服飾器什より日用器具に至るまで、先を争ひ後るを恐れて政府の好尚に横せざるものなし」(明治六年、瀟澤翁「書淵先」)。

かくの如き官尊民卑の際なれば、彼等士族が争ふて官途へと蟻集したるは理りなり。されど官途とて其數に制限あり、其希望を満し得る者只其一部のみ。尤も明治五年、學制布かれたるが故に所謂社會は「先生」として彼等の一部を吸集したるも、其數や知る可きのみ。今や士族は役人か教師か然らずんば坐食するより外道なき

に至れり。かの自由民權の政治運動の如きは、此の不平等士族の官途に就き得ざりし鬱憤の發露とも見るを得べきなり。

余はマルクスの唯物史觀を其ま、批判なく學ばんとする者にあらず。されど近世歴史の發展に於て經濟現象は重要なる役目を演ずるものなることを認む。凡て社會に存在する傳統的慣習は無批判のまゝ、繼承さるゝもの多きも、一度經濟問題に接觸せんか、批判吟味は之に加へられ過去の傳統的打破と改進とに向つて進むものなり。故に維新當時の社會階級に對して經濟的一瞥を與る事必要なり。

町人階級は江戸時代の始めより勃興し來り幕末には其の勢力大なるものあり。而して彼等の職業は他に依存したる職業にあらざるを以て、政治的變遷は彼等にとりてパン問題に觸るゝことなかりき。又工業の如きも手工業にして、政變によりて其の職を失ふ如きは稀にして、是れ亦政變には關知せざる態度を探り得たり。次に百姓即ち農民は幕末に於て漸次農村の商化を見

たりしが、武士の封祿奉還によりて、從來耕せし土地の所有權を無償にて獲得するを得たれば、此の政變により思ひかけもなき幸運を贏ち得たり。彼等は今や武士の手より解放され、加ふるに恒産たる土地を得たり。幸の神は彼等のみによりて前髪を捕へられたるの觀あり。

然ば士族や如何、抑も武士は幕末に際會して長夜の眠りより目覺め政治我を皇室に發見し、尊王攘夷の標語モットーの下に熱血をそゝき以て維新の大變革を成就せしめたり。故に一度「天皇」のインスピレーションに打たれたる彼等武士は、明治維新と共に之れ迄有せし版籍を喜んで陛下に奉還し奉りしなり。而して政府は之れに對して、公債と現金との僅少なる反對給付（慈悲なしたるに過ぎず。げに彼の英公使パークスをして、此の事外國に在らしめば血の雨を見ずして止むべきや、と讚美せしめしも理りにして、彼等士族は錦旗の前には一切を奉りて何等悔いざる國民性の神秘的發露を爲せしなり。

今や武士は、經濟的保證たりし封祿より離

る、而して懷中に残りしものは少許の公債と現金とあるのみ。彼等は始めこそ金を手にせる一時の微笑を禁し得さりしならんも、次で襲ひ來る可き糊口の問題を考量すべく餘義なくせられたり。茲に於て彼等の中比較的的教育程度の高き者は、官吏に、教師に、奉職せり。されど之れ眞の一部のみ、大部は今や公債の盡ると共に浮浪すべき運命に陥れり。

今やパン問題は眼前に逼れり。官途は塞がれり、教師は滿されたり、如かず、退いて田園のもを農耕に従はんか、從來土百姓視せし彼等と伍するには傳統の自尊心を奈何せん。茲に於て餘されたる途、商界へと進むに在るのみ、而して彼等は悦んで商界に入れり。幕末既に其の精神に於て町人化したりし彼等士族は一獲千金を夢みつゝ奉還金を懷にして商業の戰場へと突進しぬ。

猛進し來りし商界は、尙依然として舊き商の形態を踏襲せし社會なり。此處には百戰鍊磨の所謂町人あり。奈何で其の商戦に於て敵するを

得べき。悲しや「士族の商法」の形骸を残して
退き隣れや彼等の浮浪化は始りぬ。(未完)